

令和3年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■荒砥地区：12月16日（木）午後7時～8時30分 参加者数43名
（うち15人町職員）

白鷹町過疎地域持続的発展計画とこれからのまちづくり

《質疑応答》

- Q. 県内21市町村で過疎地域持続的発展計画を策定しているとのことだったが、置賜地域ではどこか。
- A. (企画政策課長) 川西町、飯豊町、小国町、当町であると認識している。
- Q. 昨年度から、菖蒲・下山・佐野原・大瀬の川下4区の区長、副区長が定期的集まって、今後4区をどうしていくか協議してきた。その結果について、先日、区役員に対する説明会を開催し、川下4区のこんなところが不安なので、今後どうすればよいか、我々はこうしていこうと思っているということを提案した。4区の合併も視野に入れているが、簡単にできるものではないと認識している。人口減少、出生数の減、急速な高齢化が進む中、どうやって集落を元気にしていくのか。説明会でも、具体的にどうしていきたいかを示してほしいという意見があった。
- 地域づくりとあるが、どんな姿の地域をつくりたいのか。また、人材の確保とあるが、どんな人材が欲しいのか。元気な地域とはどんな地域か。活気があるという意味か、それとも別の意味か。求める姿を具体的に教えてもらいたい。
- A. (町長) 理想は色々なので、結論をこれだと絞ることはできない。それぞれの地域によって違う。コミュニティとは、お互いに、地域の中で支え合うことだと思っている。今ある地域の中で、お互いに支え合うということを、どうやって作っていくかが一番大切だと思っている。川下4区でいうと、大平橋について、莫大な時間と費用が掛かる改修工事より、あった方が良くなくてもしかたないと割り切り、取り壊しを行っている。新しいものをつくるだけではないと思う。このように、それぞれの地域にあったやり方があると思っている。
- Q. 町がこういうことを考えていくとなると、将来、我々川下4区だけの問題でなく、白鷹町全体の問題になる。川下4区の合併の話も、今まで10年間隔くらいで3回出ている。ぜひ、町からも、こういうのが良いのではないかとということをお力添えいただきたい。
- A. (町長) 町として、地域ごとの理想を考えるということは難しい。しかし、他の町内はどうなっているのかなどあれば、お教えする。あらゆる情報を出すので、何かあれ

ば相談していただきたい。

その他 地区の抱えている課題や、町への要望など

《質疑応答》

- Q. 荒砥第1区は人口減少が著しく、特に八幡2が少なくなった。一番多い時には76軒あったが、今は18軒まで減った。役員を選出するのもかなり大変で、同じ人が、役を取り換えながら毎年やっているという状況。

八幡2には、草木沢川という川がある。7月の河川愛護デーの時に、中州に入って草刈りをしている。草刈り機を使える人は7~8人。いろいろなものが流れてくるため、拾って、今までは役場の方で刈ったものを片付けてもらっていたが、今年は明確な回答がなかった。いつまで続けられるか実際わからない。最近、中州が高くなってきて、さらに物が流れてくるようになった。災害時には流れを妨げる。都市部は、重機で浚渫するようだ。県の管轄の川かもしれないが、地元負担だけでは厳しい状況。町の方で中小河川の浚渫をしていただきたい。

もう1点は、最近クマやイノシシなどの獣が町内に出ている。発見時の報告だけでなく、積極的に駆除する方向で考えていただきたい。

貝生川については、岩の下橋のところに土砂が堆積していたが、県の方で土砂を搬出していただいた。ただし、この下流側については、昔は新町の方で草刈りをしてきたが、今はしていないため、土砂が堆積している。今回浚渫しなかった場所についても、土砂が溜まっている状況になっている。これについて、要望は出しているがなかなか進まない。

毎年、河川愛護デーの時に、貝生川の堤防及び川の中の草を刈っていた。貝生も高齢者が多く、川の中に入ったのが作業が難しい状況。今年は、貝生沼付近の伸びてきているところは川に入ったが、それ以外は堤防の草刈のみにした。雨が降れば流されるので、結果的にみると、刈っても刈らなくても、変わらないような気もする。心配なのは、川に入った柳などが大きくなると後で困ってしまうため、その部分については、処理しなくてはならないと思っている。

- A. (建設課長) 貝生区長からもあったとおり、今年度から、河川の一斉清掃について、町からの要望は控えさせていただいた。やはり、県管理河川、町管理河川とあるので、地区の皆様にご協力いただいていることには大変感謝している。安全には配慮していただきたい。県管理河川は、河川愛護団体に登録していただくと、様々なボランティア保険にも加入いただける。貝生川や、草木沢川の話が出たが、これら県管理の河川については、白鷹町には16本ほどある。その中で、県が現場の状況等を確認し、令和3年だと6本の河川の浚渫等の事業を実施した。仲町区長さんからあったように、下流の最上川までの合流点については、区から要望をいただいております、県の方

にも改めて要望している。

(農林課長) 多くのイノシシが確認されており、その対応に我々も手を焼いている。鳥獣対策実施隊、いわゆる猟友会と連携して、罠を設置し、駆除を行っているが、思ったよりも罠にかかってくれないという状況。驚いたことに、先日やまもり菓子舗の前の道路で、イノシシによる交通事故があった。野生動物なので、コントロールできない。見つけたら駆除となつてはいるが、町の中で発砲はできない。今の段階では、罠を設置しての駆除をするしかないと思っている。余談になるが、野生のイノシシから、豚熱感染の個体が発見された。町内に養豚業者もあるので、そちらへの感染は避けたい。弱っている、あるいは死んでいるイノシシを見つけた場合、農林課へ連絡いただきたい。

(町長) 河川愛護デーを20年以上続けてきたが、今年度は県の依頼を正式にお断りさせていただいた。すると、県から何とかやってほしいとお願いされた。十王6町内での作業の際、機械をもっていくが、私で若い方。どこの地域も同じような状況だと思う。若い人は草刈り機を持っておらず、使えない。高齢者は草刈り機を使えるが、けがの心配がある。このような状態では続かない。やるのであれば、もう一度原点に戻るべきではないかと県に申しあげ、お断りした。人数が少なくなっているのので、参加できない人から負担金をいただいている地区も増えている。これはいかなものかと思い、改めて県が来たときに、対応させていただきたい。河川の土砂の浚渫については、本流の方の浚渫を行ってもらっている。これからもまだまだやるはず。最上川全体を下げなければ支流は下がる。

イノシシ、ニホンジカ、クマなどの有害鳥獣については、新聞記事にもあったが、有害鳥獣によって亡くなった人がいる。散見程度だが、シカも心配されている。できるだけ我々も対応していくが、地域の方々にも応援、ご協力いただきたい。

Q. イノシシの話があったが、以前は春と秋に野鼠駆除をしていた。農薬を使った駆除は出来ないか。

国道348号線を、高速道路につなげる構想を考えていただきたい。

西回り幹線道路の看板をもう少し大きく出来ないか。

駅西はほとんど農地で、相当荒れている。4・5年前、議会でその再整備という話があったと思うが、地区全体としてその整備をしていただきたい。総合的に検討してもらいたい。

A. (町長) 野鼠駆除では、死んだ鼠を猫が食べるということがあった。イノシシに毒を食わせて駆除するというのは、今の状況ではできない。山形新聞の記事にもあったが、置賜広域の視点から見ると、処分の限界が来ており、処理施設が必要である。処理の方法、駆除の方法については、猟友会と一緒にこれから考えていきたい。

国道348号線を高速道路につなぐことについては、すぐには実現できない。荒砥橋

の改築にも10年、国道287号線については20年かかっている。国道348号線についても、新しいルートができるというのはかなり時間がかかる。山形市の西公園あたりに、スマートインターができる。それとの連携を調整しながら取り組んでいきたい。

西回りは長井大江線をベースに考えていきたいため、看板よりも、どうやらもっと運動が前進できるかを考えていきたい。

駅西については、都市計画の見直しに取り組んでおり、新年度になって初めて有効になる。駅西は、都市計画区域から外した。農業振興地域だが、用途地域ではない。この素晴らしい農地をどうしていくか、地域の皆さんから意見をいただき、町にとってプラスになるようなことを考えていきたい。

- Q. 高齢者世帯を訪ねたとき、見たことがない機器があり、訪ねると、防災無線の受信機だと教えていただいた。荒砥地区内には、どのくらい受信機が入ったのか。加えて、長井市は、希望者に無償で防災ラジオを配布しているようなので、ぜひ、白鷹町も防災無線の受信機の配布を増やしていただきたい。
- A. (総務課長) 荒砥地区だけの数は分からないが、単身高齢世帯604世帯に調査を行い、希望された154世帯に配布し、10月から運用している。こちらは、町の方で450台ほど用意しているので、今回また追加希望を取る予定。スマホや携帯電話をお持ちの方は、登録すればメールでも同じ内容を確認できるため、そちらで対応している方もいるのかなと思う。世帯に一人でもスマホや携帯電話をお持ちの方がいれば、そちらでの対応もお願いしたい。